

乳がん検診のはなし

「マンモグラフィー検診の重要性」



君島乳腺クリニック
院長 君島伊造先生

昭和28年、福島市生まれ。同53年、福島県立医科大学を卒業後、同大学第2外科入局。昭和62年、同科 乳腺グループチーフ、以降、乳がんの臨床、研究に従事。北福島医療センターを経て、令和4年に「君島乳腺クリニック」を開院。

マンモグラフィー検診は乳がん死亡率低下効果が証明されている唯一の方法

欧米では、乳がんの死亡率が1990年ごろから低下に転じました。その理由として、マンモグラフィー(以下MMG)検診の普及と、乳がん術後に行う再発予防目的の薬物療法(補助療法)の進歩の二つが挙げられています。

乳がん検診にMMGが使われる理由は、臨床試験によって乳がん死亡率低下効果が証明されているからです。日本では明らかに乳がん死亡率低下は認められていません。欧米各国受検率が7〜8割なのに、わが国ではいまだ3〜4割と低い事も原因と思われます。

MMG検診において、乳がんの所見として重要なのが石灰化であり、いまだ転移能力の無い超早期の段階から出現します。それならMMG検診だけで乳がんの多くが超早期に発見できるはずですが、残念ながら石灰化を伴う乳がんは全体の半分もないのです。その段階で見つからなかった乳がんは、やがて周囲に浸潤してシコリを形成します。浸潤がんは小さいほど治る確率が高いのですが、若い女性ほど乳腺組織がしっかりとっているため(デンスブレスト)、MMGではシコリが乳腺に隠れて見つけ難く、放射線被ばくの影響も大きいのです。

一方、放射線被ばくがなく、乳腺内の小さなシコリを見つけるのに役立つのが超音波検査。超音波検診の乳がん死亡率低下効果はまだ証明されて

いませんが、転移の可能性が低い5mm以下の小さな乳がんを比較的容易に発見できますので、検診方法として有用と考えられています。

市民検診では超音波検診の設定がなく、自費検診が可能な施設やドック検診などで受けることができます。検診発見乳がんの多くは初回受診時に見つかるので検診年齢(40歳)になったら速やかに始めることをお勧めします。



詳しい内容は
ここからも読
めます

Information

君島乳腺クリニック

Tel 024(528)8511

診療時間 / 月・火・木・金 曜日

9:00~12:30、14:00~17:

00。土曜日9:00~12:30

休診日 / 水・日曜日、祝日

住所 / 福島市松浪町2-8

※電話で予約してください。